

お役立ち情報

情報ものしり帖

雷から身を守るには

今年は水害が目立ちますが、雷による事故も少なくありません。国内の落雷回数は年平均約50万回。以前に比べれば減ったとはいえ、死傷者も毎年平均10人前後です。家族や友達と山や海に出かけたら、急に辺りが暗くなり、ゴロゴロと雷音も聞こえ始めた。そんなとき、どうしたら雷から身を守れるのでしょうか。電力中央研究所(東京都千代田区)の新藤孝敏・上席研究員は「早め早めの対策をとってほしい」と話します。

場面ごとの対策を聞くと。

山登り、ハイキング

AMラジオを持っていくことをお勧めします。ラジオに「ガリガリ」という雑音が入り始めたら、約50キロ先に雷が来ていると思っていいです。雷雲の移動速度は時速40キロに及ぶこともあります。音がしてから1時間前後で雷雲の真下に入ることになるので、引き返すなど早めに行動をとったほうがいい。



気がついた時はすでに雷雲の下だったという場合、山小屋など建物に避難するのがベストです。木の下に雨宿りがてら避難するケースがありますが、新藤さんは「木の近くは、基本的に危険です」と警告します。木の近くは、幹や枝などから人に雷が飛ぶ「側撃」があるからです。

もし木以外に何も無い野原で、木の近くに避難せざるをえないならば、できるだけ低い木を選ぶことです。雷は高いところに落ちやすいからです。木は避雷針の役目も果たしますが、保護されるのは45度の範囲内に限られます。木の高さにもよりますが、側撃の可能性を考えると、木の幹に近づきすぎないように、幹から3メートルは離れる必要があります。

姿勢はしゃがむこと。うつぶせは、地面を伝わって電気が流れるので禁物です。

街中や農道で

高いビルや電柱がある街中を歩いている場合は、そう心配ありません。鉄筋コンクリートの建物や車の中に避難すれば、より安全です。しかし軒下の場合は、柱などからの「側撃」の可能性があります。農道など周りに何も無い場合は、身を低くして、早めに建物などへ移動するようにしましょう。

よく、ネックレスや眼鏡などの貴金属類をつけていると危険！という人がいますが、つけて歩いていたら落ちや



すい、とは言えません。実験で貴金属による雷の「引き寄せ効果」はほとんどないことが分かっています。逆に「ジッパー効果」といって、ワンピースのファスナーなど金属に電流が流れ、体の中に流れる分が少なくなるため、軽傷ですむ可能性があります。ただし傘を差すなど、自分の体より上に出っ張っている金属類には落ちやすいので、注意が必要です。

ゴルフ、野球、釣り

雨が降り始めるとさすがにプレーを中止しますが、雷音だけではやめられません。しかしそれが命取りになることもあります。雷は、貴金属あるいはビニールなどの素材や材質の違いより、高さを優先します。「クラブを振り上げた」「釣り糸を振り上げた」。その時が危ないことを忘れずに。

海でサーフィン

海に雷が落ちて、電流が水の中に広がり、電気ショックを人間が受けることがあります。雷が鳴り始めたら、早めに陸に上がりましょう。

家の中でも

鉄筋コンクリートの場合はまず大丈夫です。木造であっても、柱や壁あるいはテレビなどの電気器具から1メートル程度離れていれば問題ありません。自宅近くに雷が落ちると水道管などの金属管を伝わって、雷の電圧が侵入してくる可能性があります。感電を防ぐには、入浴や炊事も一時とりやめたほうが無難です。

毎日新聞生活家庭部

Copyright© 2003 Kyoei Fire&Marine Insurance Co.,Ltd. All rights reserved